

学生相談室だより

2010 年 第 2 号 (通 算 第 24 号) 2010 年 11 月 発 行 : 京 都 橋 大 学 学 生 相 談 室

今年の夏は本当に暑く、明治に気象観測が始まって以来の記録だったそうです。後期が始まってからもしばらく暑かったのですが、やっと秋らしい気持ちのよい季節になったと思ったら、今度は10月とは思えない寒さ。本当に今年は天候の移り変わりがめまぐるしく戸惑います。学祭が終わると今年も終盤。1年のうちには、楽しい経験だけではなく苦い経験もします。その苦い経験も消化して、いつの日か「豊かな経験だった」と言えるようになりたいものです。

現在、京都橋大学学生相談室には二人のカウンセラーがいます。学生相談室を気軽に利用してもらえるように、そしてカウンセラーを知ってもらうため、毎年、前期と後期に1回ずつ「学生相談室だより」を発行しています。では、まず北尾敬子からスタートし、途中で河井直美にバトンタッチします。

ス ト レ ス を 生 き 延 び た 人 々 の 秘 密

今年はまだ終わっていませんが、おそらく私にとって今年一番衝撃を受けたニュースは、チリ鉱山の落盤事故でしょう。チリの鉱山で落盤事故があったのは、8月5日。それから17日間、地下700メートルで閉じ込められた33人の鉱夫たちの消息はわかりませんでした。17日後、33人全員の生存が確認された時、世界は大変驚きました。毎日多くのニュースが飛び交う中で、私がこのニュースにこれほど関心を持ったのは、事故に会った人々が陥った環境が、私が最も苦手とする環境だったからです。落盤事故現場は35度を超える高温多湿。私は高温多湿が大の苦手。夏の間、毎日、時間があればクーラーや扇風機の下でアイスキャンディーを食べ、汗をかけばシャワーを使って暮らしていました。さらに、事故現場は大変狭く太陽の光もささない場所です。私は狭い所が大の苦手。子供の頃、一度エレベーターに乗っていた時ドアが開かなくなり、15分ほど閉じ込められたことがあります。それ以来、エレベーターに乗ることさえ避けがちな人間です。落盤事故現場の環境を想像しただけで気が遠くなりました。そんなこともあり、10月13日は33人が救出される場面をテレビで食い入るように見て過ごしました。今回、私がかこれほどこの事故に関心をもったのは、私自身が閉所恐怖の傾向があることに加え、想像を絶するストレスをどのように33人の人々が生き延びたのかに関心があったからです。

まず言えることは、危機的状況や不安な時、自分を待っていてくれる人との心の絆が重要な役目を果たすということです。33人の人々の生存が確認されてか

ら、事故現場にはテント村ができ、事故にあった人々の子供たちが通学する仮設学校さえできたそうです。地下にいる33人にとって、自分のことを心配して待っていてくれる地上の人々と電話で話したり、手紙のやり取りをすることは大きな心の支えになったそうです。普段元気な時以上に、ストレス状況では心の絆は大きな力を発揮します。

次に事故にあった人々の集団心理について考えてみたいと思います。空調のきいていない満員電車を考えればわかることですが、人口密度の高いギュギュウ詰めの閉鎖空間では人は容易にイライラがつのりやすい。まして、生存が確かめられなかった17日間、坑内には数日分の水や食料しか貯蔵されていませんでした。17日間もの間、救助が来るのかどうかも分からない高温多湿で不衛生な閉鎖空間で健康な心身の状態を保つことは難しい。いざこざや暴力沙汰もあったそうです。それでも、誰も死ななかつただけでなく、リンチにあった形跡もなく、全員が生還したことは嬉しい驚きでした。何がよかったのでしょうか？

最後に救出されたチームリーダーの果たした貢献が指摘されています。この人は、長い鉱山経験があるばかりでなく、早くに父を失い長子として弟妹たちを支えて生きてきた人だそうです。しかし、これほどの状況下では、どれほど有能な人がいたとしても、一人の突出した力だけですべてを解決できません。集団をまとめなければなりません。33人は初めから団結していたのではありませんでした。3つのグループに分かれており、それぞれのグループは対立しがちでした。しかし、初め対立していた3つのグループはそれぞれリーダーを立てて、最終的には33人全員で毎日2回話し合いの場をもつようになりました。リーダーとは、カリスマ性をもち人をひきつけるような人間でなくてもよいそうです。使命のために、優先順位と基準を決め、それを維持できる人。そして、そのためには妥協ができることが大切だそうです。このリーダーはそういう人だったのでしょ。

大きな事故や事件に巻き込まれると、その直後は元気に見えた人でもずっと後になってその影響が出てくる場合があります。救出された33人の今後に関心を持ち続けていきたいです。

(文責 北尾敬子)



「見えんけど、おる」え、何が？—お化けや幽霊、人の霊が・・・？

この「見えんけど、おる」という言葉は、9月で終わった朝の連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』で、何度も出てきた台詞でした。水木しげるの描く世界の妖怪、例えば「べとべとさん」が、後ろからひたひたついてくる音がして、振り向いても誰もいない、しかし「べとべとさん、先にお越し」と言っ、脇に寄ればその後もう気配はなくなる、そんな「見えないけれど居る」もの達の存在をあなたは信じますか？(ヒュウウ〜ッ、ドンドンドンドン！ヒュウウ〜ッ)とヒンヤリしたい胆だめしのシーズンではなくなりましたけどね。

急に話は変わりますが、この夏の終わりから湿疹に悩まされ、ポツリポツリと出ては消え、場所が変わり、「かゆい」と思って後で塗り薬をつけようとした時には姿をくらまし、今度は出てないところ辺がかゆい、（う～ん、見えんけど、おる。姿出しあがれ）と、憂うつな日々です。薬もきちんと続けて飲まなかったせいか長引いてしまい、慢性化した蕁麻疹と言われてしまいました。さて、原因は何なのか？医者から言われたいろんな可能性の中から、自分の場合は一つのサプリメントのせいと決めつけることにしました。だって、それを飲まなくなればなおるってことで楽ですから。ところがどっこいしょ、長引いてますがな。そんな折、続けてカウンセリングで会っている小学高学年の女の子が、偶然同じ症状で医者通いをしているとわかりました。「何が原因なんやろうね？」と聞くと、即「ストレスやで」と返ってきました。「え？そうなの？」「お医者さんがストレスでもなるって言ってた」数ある原因の可能性の中で、サプリを選びストレスを排除した自分に、（ストレス違うか？考えや）と、目の前に座るその子が鏡のように感じた一瞬でした。

眠れない程かゆくてつらかったピーク時に、浮かぶ言葉は（かゆい、かゆい）ばかりでしたが、うつらうつら眠れ始めた頃、なぜか（ぞうさん、まどみちお）と浮かび、童謡『ぞうさん』の歌詞が繰り返されました。（ぞうさん、ぞうさん、ぞうの鼻は長い、それがどうした、ぞうの鼻は長いに決まっとる。かあさんの鼻も長い、そりゃそうやろ、当たり前。）そんなつぶやきは、かゆいという事象にのっとられたら（かゆい）という言葉しか出なかったのが、少しだけかゆさから解放されたら、象の鼻は長いという事実、自然や生き物の見たままの姿や風景描写の言葉になり、もっと解放されたら「ぞうさん、ぞうさん、おはながながいのね、そうよ、かあさんもながいのよ♪」と口ずさむ唄になったのかということ。そして、あらためて気づいたのですが、童謡『ぞうさん』の歌詞は、ただの象さんの姿だけを詞にしたのではなく、象を見ている子どもが、象さんに話しかけ、象さんの子どもと会話している唄だったのかということ。そして、なぜかわかりませんが、次に頭で繰り返し流れ始めたのは、ファンキーモンキーベイビーズの（Lovin'Life）の歌詞とメロディーでした。なんでやねん？その謎はまだ解けていませんが、あまり考えると蕁麻疹が活発になりそうでやめています。どなたか、浮かぶことあれば、教えてくださいな。

さて、まとまらない頭の中をそのまま落書きしたような文章になりましたが「見えんけど、おる」という言葉に引かれ、古い物のよさやにおいを思い出させてくれたゲゲゲのドラマの影響かもしれない。しかし、目に見えないものはないものとして切り捨てられることが多い時代でもあり・・・と感じている現実とのギャップで、うまくまとめられないようです。そうです、目に見えないと信じられないことってありますから。この文を書いていて思い出したのは、子どもの頃人魂（ひとだま）の話を祖母から聞いていましたが信じませんでした。それが、ある夜、祖母と家のすぐ近くで赤橙に尾を引いて宙を舞い消えていく火の玉を見ました。怖かった～。そして、翌日、前夜に近所の祖母の井戸端友達が亡くなったことを知りました。「見たからおる」と思います。（文責 河井直美）

学生相談室開室曜日および開室時間

月曜日	9:00～16:10	河井先生
火曜日	9:00～16:10	河井先生
水曜日	9:00～16:10	北尾先生
木曜日	9:00～16:10	河井先生
金曜日	9:00～16:10	北尾先生

個別面接時間

月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日

- | | |
|---------------|---------------|
| ① 9:00～9:40 | ⑤ 13:00～13:40 |
| ② 9:50～10:30 | ⑥ 13:50～14:30 |
| ③ 10:40～11:20 | ⑦ 14:40～15:20 |
| ④ 11:30～12:10 | ⑧ 15:30～16:10 |

★個別面接については、予約が基本となります。

「学生相談申込票」で申し込み、「約束カード」で相談日時を確認して相談を受けてください。

★予約当日は、直接来室してください。カウンセラーが対応します。

★昼休み時間は、コミュニケーションスペースで自由な相談ができます。

★夏期および春期の長期休暇中は、原則として週2回の開設となります。

長期期間中は、

医務室（075-574-4119）または

学生支援課スチューデントセンター（075-574-4114）

までご連絡ください。